



第四紀の陸上成層火山 “浅草岳・鬼が面山”

▼鬼が面眺めから望む浅草岳と鬼が面山



福島と新潟の県境に位置する浅草岳(1,585m)は、只見地域を象徴する山岳の一つです。只見川、伊南川流域にある多くの集落からその秀峰を望むことができ、親しみある山です。浅草岳は160万年前の火山噴出物の堆積によって形成された成層火山で、浅草岳と峰続きにある鬼が面山(1,465m)もこの山塊の一部をなしています。1600万年前に海底で堆積し太平洋プレートに乗って移動してきたグリーンソータンなどの堆積岩を火山のマグマが貫いてできた安山岩の地層が見られます。一般に、成層火山は、富士山のような整った円錐形になることが特徴ですが、現在は非対称な形をなす浅草岳も、北西斜面にかけての緩やかな尾根と放射状に伸びる谷間があることから、成層火山であったことが読み取れます。ですが、その活動時期は古いことから、その後に田子倉・只見沢方面への山体浸食が進み、現在はその火口部は認められません。浅草岳の山頂部から鬼が面山にかけての稜線は外輪山の一部と見られ、鬼が面山の険しくそそり立つ東斜面は噴火口の外壁と考えられています。浅草岳を眺めながらかつての造山活動と長い年月をかけた大地の成り立ちに思いを馳せてみませんか。

只見町ブナセンターからのお知らせ

■アーカイブ企画展

「只見の哺乳動物とその生態」

期間：12月6日(土)～3月30日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム